汝も又國をや思ふますらをの
駒そいさめる戰のさま　松本文子

霞たつ野原にむるゝ若駒の
別れ〳〵にならんとすらん　池谷淺子

月おぼろあたりしつけき春の夜に
老馬をなてゝゑむ翁かな　小笠原政治

のりましゝ主かはふりの朝まだき
うまやの中に馬ぞいなゝく　稲垣安子

れそくとも心の駒したゆますは
文の山道いつかこゆらむ　佐々木雪子

幼なとち木馬にのりて遊ふかな
みとり涼しき庭の芝原

## 雑詠三首

聞郭公　いく子

おもひねの夢かあらぬか郭公
たゝ一こゑをありあけの空

名所河

こと〻ひしむかしを語れその世より
すみたの川のみやことりはも

曉水鷄

ひとをまつ心ならひにたゝく戸を
あけてくひなのあかつきの聲

## 雑詠三首

鶯　水

友の結婚を祝ひて

色かへぬ千世のはしめの若緑
ふかき契りや相生の松

春を惜みて

梓弓はるのゆくへをたつねてぞ
ひくまの野邊にかりくらしける